

みらい きゅうしょく
未来の給食、なに食べる？



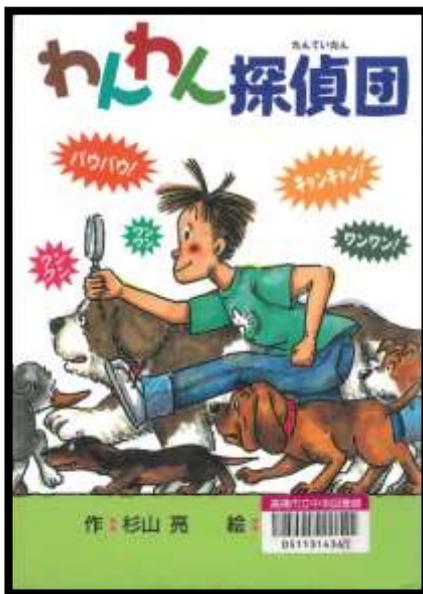
楠木 誠一郎/作
下平 けーすけ/絵
講談社[588]

治虫が所属する理科部では、顧問の紺野先生から「未来の給食」を考える宿題を出されます。「未来の給食」とは、今後の人口増加による食糧不足に備えて科学の力で作られた、新しい食材を使った給食のことです。

治虫・晴陽・日香の3人はそれぞれ代替食品や培養肉、昆虫食などを使ったメニューを考え発表し合い、ついに未来の給食のメニューが出来上がりました。

いつか未来のあたりまえのメニューになっているかもしれません。「おはなしサイエンス」シリーズの1冊です。

たんていだん
わんわん探偵団



杉山 亮/作 廣川 沙映子/絵
偕成社[913スギ]

犬の訓練士スピッツかわいは、犬好きで、あずかっている犬と捨てられた犬もかっているので、家の中はたくさんの犬でおおさわぎです。

顔見知りのけいぶから、だれもいない部屋から金魚が消えた事件の手助けをしてほしいとたのまれ、犬といっしょに、みごと事件を解決。その後は、犬をつかい名探偵の仕事も引き受けることになります。

物語は事件編と解答編にわかれていて、読者も謎解きを楽しめます。

アナグマの森へ



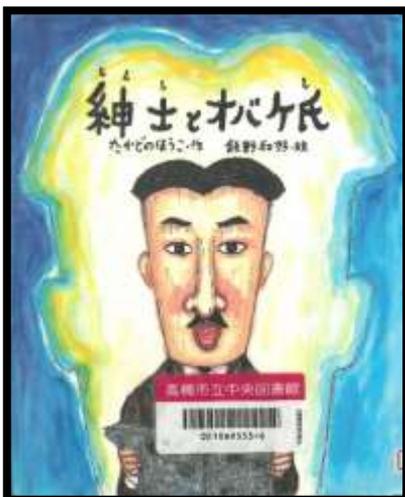
アンソニー・マゴワン/作
野口 絵美/訳
徳間書店[933 マゴ]

ニッキーの家族は1歳上の兄ケニーと、犯罪にまきこまれて保釈中のお酒ばかり飲む父と3人暮らし。母さんは家を出ていった。

ある日、村の不良たちに呼びだされ、アナグマと飼い犬を戦わせる遊びにまきこまれる。ニッキーは不良たちのすきを見て親子のアナグマを逃がし、取り残されたアナグマの赤ちゃんを助ける。

アナグマの赤ちゃんを育てることでニッキーの苦しい生活に希望の光がみえてきます。

紳士とオバケ氏



たかどの ほうこ/作
飯野 和好/絵
フレーベル館[913 タカ]

マジノ・マジヒコ氏は、町中の古い家に一人で住んでいます。いつもきちんとした服を着て、だれかとふざけてはしゃぐこともせず、時計のように規則正しく、おちついた心もちでくらす、とてもまじめな紳士です。

ある日曜日、マジヒコ氏が昼食をとろうと居間に入ると、自分の席に白い服を着た人がすわっています。さらにおどろいたことに、その顔がマジヒコ氏にそっくりだったのです。

ちょっぴりハメをはずしたマジヒコ氏の、ユーモアあふれるお話です。